

[普及事項]

成果情報名：極短穂系飼料用稲専用品種は牛の消化性が低い粳の少ない稲発酵粗飼料を生産可能

研究機関名 畜産試験場 飼料・家畜研究部
担 当 者 由利奈美江

[要約]

稲発酵粗飼料（稲WCS）の生産拡大のため、早生系統の極短穂系飼料用稲専用品種「つきはやか」の生育、収量について調査を行った。「つきはやか」は粳数が少なく、食用米の収穫前に収穫が可能な品種であり、普及拡大が期待できる。

[キーワード]

稲発酵粗飼料用稲・極短穂系品種

[普及対象範囲]

県内のコントラクター組織及び畜産農家

[ねらい]

稲WCS生産において、生産現場からは、牛にとって消化性の低い粳が少なく、食用米の稲刈り前に収穫できる早生品種が求められている。粳の少ない極短穂系の飼料用稲専用品種は関東以西向けに育成された中生以降の品種が多かったが、近年東北でも利用できる早生系統「つきはやか」が品種登録されたことから、本県の奨励品種として選定の可否を検討するため、生育、収量調査を行った。

[成果の内容及び特徴]

- 1 県奨励品種の「夢あおば」「たちあやか」「つきあやか」のうち、「夢あおば」は穂重型早生品種で、「たちあやか」「つきあやか」は極短穂型晩生品種である。各品種の試験時の移植日及び収穫日は表1のとおりであり、9月中旬から下旬には「つきはやか」を含む全ての品種で黄熟期から完熟期を迎えた（表1）。
- 2 草丈は「夢あおば」が最も低かったが、穂長は「夢あおば」が最も長く、他の3品種は20cm未満であった（図1）。
- 3 乾物収量（全重）は全ての品種で大きな差はなかった。乾物収量（茎葉）では「たちあやか」「つきあやか」「つきはやか」が同程度であり、「夢あおば」はそれらの半分程度であった。「つきはやか」は、「たちあやか」「つきあやか」と同様に粳の少ない稲WCSを生産することが可能と見込まれた（図2）。
- 4 「つきはやか」は早生品種の「夢あおば」と同時期に黄熟期に達すると予想され、主食用米の収穫前に刈取ることが可能と見込まれ、作期の拡大が期待される（図3）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 気温等によって成熟期は変動するため、その年の気象条件に合わせて収穫適期を確認する。
- 2 農薬の使用にあたっては、稲発酵粗飼料用稲に登録のある農薬を使用すること。
- 3 主食用米との競合のないコントラクターでは、晩生品種の「たちあやか」「つきあやか」も粳が少ない稲WCSの生産に有効である。

[具体的なデータ等]

表 1 各試験年の作業日及び収穫時熟期

品種	R1			R2			R3		
	移植日	収穫日	収穫時熟期	移植日	収穫日	収穫時熟期	移植日	収穫日	収穫時熟期
夢あおば	5月24日	9月18日	黄熟期	5月27日	9月15日	黄熟期	5月26日	9月28日	完熟
たちあやか	5月24日	9月26日	完熟	5月27日	9月24日	黄熟期	5月26日	9月28日	糊熟期
つきあやか	5月24日	9月26日	完熟	5月27日	9月24日	黄熟期	5月26日	9月28日	黄熟期
つきはやか	—	—	—	5月27日	9月15日	黄熟期	5月26日	9月28日	完熟

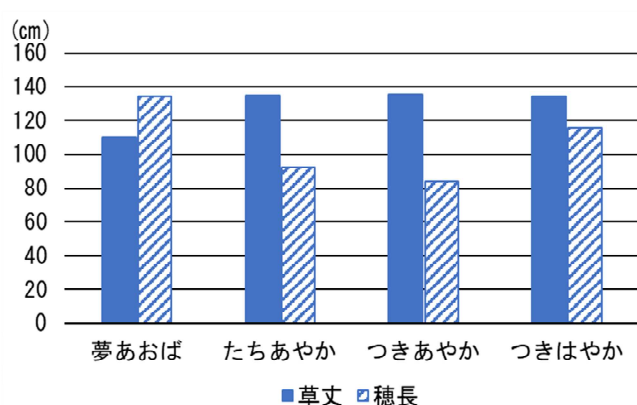


図 1 収穫時の草丈及び穂長

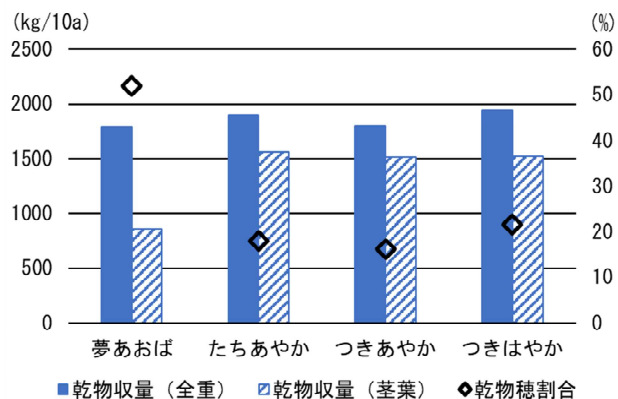


図 2 乾物収量及び乾物穂割合

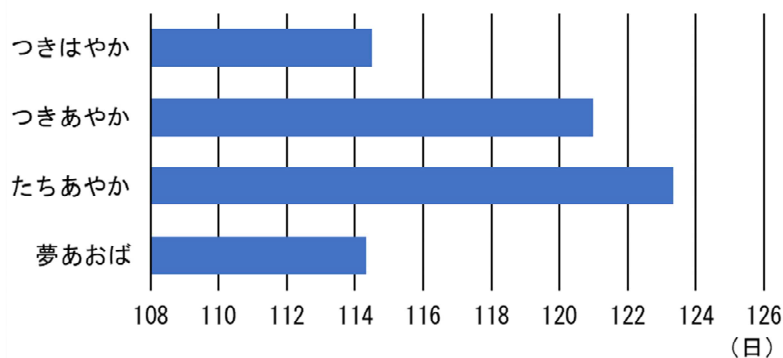


図 3 黄熟期到達想定日数

[その他]

研究課題名：飼料作物奨励品種選定事業

研究期間：令和元年度～令和3年度

予算区分：県単

掲載誌等：なし